

事業報告書

令和6年度

社会福祉法人 大木町社会福祉協議会

令和 6 年度事業報告

I. 事業 総 括

令和 4 年度以降取り組んできた「組織体としての社協」や「町の福祉の専門家集団」を目指した一連の社協改革は、大きな変革期を乗り越え、組織の安定化や自律的成長を図っていくフェーズに移行したものといたします。また最近では、社協が本来有する「柔軟性」や「機動力」、「課題解決能力」の発揮により、事業の方向性の立案や町とのパートナーシップによる課題解決などの事案・実例も増えてきています。そのような中、令和 6 年度については重点目標として、「①就業及び社会参加等全世代活躍支援の仕組みづくり」、「②災害ボランティアセンターの『地域協働型』化の推進」、「③福祉人材の確保・育成・定着の取組みの実施」の 3 つの目標を掲げ、計画的かつ着実な実施・推進を図ることができました。

まず 1 つ目の「①就業及び社会参加等全世代活躍支援の仕組みづくり」については、町シルバー人材センター解散後の運営方針や組織体制、事業内容等について、町とシルバー人材センター、社協との 3 者による協議・検討を重ねた結果、「組織を統合し、大木町版生涯現役社会の実現を目指す」といった長期的な視点に立った発展性のある一つの結論に至ることができました。また、統合後の新体制における具体的な事業内容についても、「しごとコンビニ」と「無料職業紹介」、「ワンコインサービス」の 3 事業を一体的に展開する全世代型就労・生涯活躍支援事業「おしごとコミット」として、町民の様々なニーズやライフスタイルに合わせ幅広く対応できるものとなりました。

次に 2 つ目の「②災害ボランティアセンターの『地域協働型』化の推進」については、従来想定していた町外からの災害ボランティア支援に依拠しない地元企業や法人、団体等による町内の災害時支援体制の構築を目指したものであり、令和 7 年 3 月には町内の 8 つの企業・団体等と災害時相互協力協定を締結することができ、大木町における新たな災害時支援のネットワークを構築することができました。

最後に 3 つ目の「③福祉人材の確保・育成・定着の取組みの実施」については、社協組織の人員体制も一定程度整ってきたことから、福祉人材の確保から育成・定着の方に力点を移し、YouTube を活用したより効果的かつ効率的な人材育成や新規採用職員を対象としたフォローアップ研修の実施などに取り組むとともに、町地域福祉計画・地域福祉活動計画に位置づけられた取組みの一環として、職員の専門資格取得を支援する助成制度の整備などにも積極的に取り組みました。

なお、上記の重点目標に対応した取組み以外にも、町民主体による地域食堂のスタートアップを支援し、町内で 2 か所の地域食堂の開設に繋げることができたほか、近年注力している広報・情報発信についても、引き続き公式 LINE 登録者は増え続けている状況にあります。さらに、大木町の福祉に関わる人達（ふくしビト）をリレー形式で繋いでいく新企画「ふくしビトリレー」の取組みについても、福祉を通じた人と人との新たな繋がりや創出や福祉への関心や意識の向上に一定の成果を得られているものと考えております。

上記のとおり令和 6 年度についても、ただ漫然と既存事業を続けることなく、個別的・継続的支援や地域課題への取組み、町民の方々の思いの実現など、多くの地域住民や事業者、関係者らの理解・協力・支え合いのもと、組織的かつ計画的に広範な取組みを実践・実行することができました。

Ⅱ. 各事業報告

法人運営

1. 法人運営

第2期大木町地域福祉活動計画（令和5年3月策定）の確実な推進を図るため、引き続き職員の人材育成や特に組織の主軸となる中間管理職のマネジメント能力の向上に注力したほか、各個別事業の実施についても、進捗管理を徹底するとともに計画的な遂行に努めました。

【組織マネジメントの強化】

係長職職員等を対象に、所定の民間検定（※）の受検を義務付け、マネジメントスキルの向上を図りました。 ※ビジネスマネジャー検定（東京商工会議所主催）
（実績：受検者3名）

【業務マネジメントの強化】

地域福祉活動計画に掲げた各事業について、その目的や取組概要、スケジュール等を集約した事務事業進行管理調書を事業毎に作成し、係長以上職員による毎月の経営会議において進捗管理を徹底し、確実な業務遂行に努めました。

【広報・発信力の強化】

社協公式LINEについては、登録者数が1年で約150名増えており、また、プレスリリースの積極的な活用により、効果的な情報発信を行うことができました。

（実績：LINE登録者数630名・R6年度末現在）

また、社協ホームページの全面リニューアルを行い、文字の大きさや背景色を変更できる機能やサイト内検索機能を設けるなど、より多くの人に見てもらえるよう配慮した仕様としました。

他にも、大木町の福祉に関わる人（ふくしびと）をリレー形式で繋ぎ、紹介していく新企画「ふくしびトリレー」を開始し、294（フクシ）人による福祉の繋がりを目指し、順次、広報や配信を行いました。
（実績：ふくしびと23名）

【人材確保・育成・定着の取組み】

各種の外部研修の受講を推奨するほか、年間研修計画を作成の上、計画的な内部研修の実施により、職員の育成やスキルアップを図りました。また、既存のビジネス系YouTube動画を活用することで、専門家による講義を自分の業務の都合に合わせ柔軟に学ぶなど、より効果的かつ効率的な人材育成にも取り組みました。

さらに、近年積極的に採用してきた育児中職員の定着や離職防止を目指し、(株)ワークライフ・バランスが推進する「女性の再就職応援宣言」に賛同・登録（社協では全国初）を行い、女性職員らによるピアランチミーティングを実施するなど、働きやすい職場づくりに努めました。

【カスタマーハラスメント対応方針の作成・公表】

近年、社会問題化しており、国や地方公共団体、大手企業等でも対策を講じる動きが拡大して

いることから、本会でも職員に対する安全配慮義務を適切に果たし、安心かつ働きやすい就業環境の維持・整備を目指し、いち早く上記方針を作成の上、HP 上で公表を行った。

2. 生活福祉資金貸付事業 <県社協受託事業>

低所得者、障がい者又は高齢者に対し、必要な資金の貸付と相談支援を行うことにより、経済的自立や生活意欲の助長、社会参加の促進等を図り、安定した生活を送れるよう事業を行いました。

また、貸付の対象とならない生活困窮者については、生活保護に至る前の自立支援を強化するために、生活困窮者自立支援法に基づき、県自立相談支援事務所や町と連携を取りながら対応を行いました。その他、食料品等の現物給付も実施しました。

(実績：相談件数 10 件 うち貸付に至った件数 0 件)

【新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付】 (令和 4 年 9 月で申請受付自体は終了)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業や失業などにより生活にお困りの方に対して、令和 2 年 3 月から継続して、生活福祉資金の特例貸付を実施しました。

貸付後については、償還免除者や償還滞納者の生活状況の把握（電話・面接）を行うとともに、償還猶予・免除申請の手続きの支援や県社協・県自立相談支援事務所など必要な支援機関へ繋ぎました。

特例貸付者のうち食料支援の登録者（14 件）については、地域食堂の情報提供や生活状況に応じ随時食料支援を実施し、対面による生活状況の把握や信頼関係の構築・強化に努めました。また、返済が滞っている世帯には生活状況を確認し、適宜、償還免除・猶予申請等の周知や手続き支援を行いました。

【民生委員の調査活動協力】

本貸付の実施にあたっては、借受人との面談等の実施により、生活実態の把握や調査を行い、借受人等の自立更生に関わる身近な支援者の一人として、償還猶予や住所変更の申請に伴う手続き等にご協力いただきました。

【研修等】

生活福祉資金事務説明会 (7/3)

生活福祉資金担当者内部研修 (11/22)

3. 心配ごと相談事業

住民の福祉の増進を図ることを目的に、住民の日常生活上の心配ごとや困りごとに対し、弁護士が無料で法律相談を行い、適切な助言を行いました。

相談日時：毎月第 2 火曜日（原則） 13:30～15:00（1 件あたり約 20 分）

相談員：福岡県弁護士会 筑後部会所属弁護士

定員等：毎月 4 名まで（要事前予約）

《法律相談件数》

計 32 件（前年度 33 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	4	4	1	4	4	4	4	1	1	1	0	4

《相談内訳》

家事関係（10 件）、その他民事（13 件）、倒産（2 件）、労働（4 件）、クレジット・サラ金等（2 件）、消費者（1 件）

【チケット制法律相談】

チケット（紹介状）の事前申請・受領により、久留米、八女、柳川、大牟田の各法律相談センターにて無料相談が受けられるチケット制法律相談を実施しました。

（実績：相談 9 件）

4. 日常生活自立支援事業 <県社協受託事業>

社会福祉法に基づき、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等に不安がある方が、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、日常的な金銭管理等のサービスを行いました。

本人や家族、支援機関等からの新規相談については、専門員が自宅等を訪問し、本人の困りごとや契約意思、契約能力等を確認の上、支援計画を作成し契約を締結しました。

その後は、生活支援員が支援計画に沿って定期的に自宅等を訪問し、生活状況の把握および必要な福祉サービスの利用援助、日常的な支払い等の金銭管理や生活に必要な支援を行いました。

《契約者数》

上段令和 6 年度/下段令和 5 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人員	5	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7
	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	5	5

【福祉サービスの利用援助】

- ① 福祉サービスの情報の提供や利用するための助言、開始・解約の手続き支援
- ② 福祉サービスについて不満がある時、苦情解決制度を利用する手続き支援

【日常的な金銭の管理】

- ① 年金や福祉手当等の受領に必要な援助
- ② 生活費の定期的な受け渡し、お金の使い方についての相談、助言
- ③ 福祉サービス利用料や医療費、公共料金や家賃等の支払い援助

【書類などの預かり・保管】

- ① 社協金庫（50 万円以内の預貯金通帳、印鑑など）（契約者 7 名）
- ② 貸金庫（500 万円以内の預貯金通帳など）（契約者 3 名）

【研 修】

- ① 専門員研修会Ⅰ（6/11）
- ② 事務説明会（利用料改定、キャッシュレス決済について）（8/19）
- ③ 生活支援員研修会（実践者編）（12/9）
- ④ 権利擁護部会 勉強会（R7.2/4）
- ⑤ 専門員研修会Ⅱ（R7.2/26）

5. 生活困窮者支援事業（大木町社会福祉法人連絡会）

福岡県では、福岡県社会福祉法人経営者協議会を中心に社会福祉法人同士の連携による生活困難等の生活課題や地域の様々な課題に対する支援として「ふくおかライフレスキュー事業」を実施しています。本町でも令和 2 年度に町内 7 つの社会福祉法人で大木町社会福祉法人連絡会を立ち上げています。

（実績：ライフレスキュー実施 2 件）

6. 生活支援費独自貸付け事業

生活に困窮し緊急に貸付が必要な人、生活福祉資金の貸付に該当しない人で、一時的に貸し付けを受けることで生活の再建が可能な人に対して、3 万円を限度に生活再建に必要な貸付を行いました。

令和 6 年度の貸付は、生活保護決定までや年金受給までのつなぎの資金として対応しました。

（実績：貸付 4 件）

介護予防・日常生活支援総合事業

1. 元気クラブ <町受託事業>

買い物支援が必要な高齢者で、外出機会が少なく閉じこもりがちな方等を対象に、自宅から事業会場、店舗までを送迎し、日常生活に必要な買い物と介護予防体操、脳トレーニング等を行い、体力作りを行いました。

《利用実績》

	実施回数	実人数 (男性)	実人数 (女性)	合 計	延人数	ボランティア
4 月	9	1	19	20	74	26
5 月	9	1	19	20	73	27
6 月	8	1	19	20	71	26
7 月	9	0	19	19	75	26
8 月	8	0	19	19	58	21
9 月	8	0	20	20	68	27
10 月	10	0	20	20	86	34
11 月	8	0	18	18	61	25
12 月	8	0	17	17	65	24
1 月	8	0	17	17	63	24
2 月	7	0	16	16	41	17
3 月	7	0	18	18	54	22
令和 6 年度計	99	1	22	22	789	299
令和 5 年度計	99	2	30	32	975	312

* 令和 6 年度新規利用者 2 名、終了者 4 名（介護保険へ移行 3 名、その他 1 名）

* 7/1・会場の都合で振替。大雨の為、買い物支援のみ実施

8/13・お盆の為、希望者 4 名買い物支援のみ実施

8/30・台風の為、希望者 2 名買い物支援のみ実施

【特別プログラム】

- ① 体力測定 国際医療福祉大学、高邦会の協力により実施 （4 回）
- ② 口腔機能向上事業（講話及び個別指導） （8 回）
- ③ 介護予防栄養講話 （2 回）
- ④ 音楽教室 （2 回）
- ⑤ 絵画教室 町内在住イラストレーター松永潤二氏 （2 回）
- ⑥ パステルアート 谷口敏之氏 （2 回）
- ⑦ クリスマス会（職員の出し物ほか） （2 回）

【実習生受入】

聖マリア学院大学看護学部看護学科 4 年生 （9/12・3 名）

2. 認知症カフェ事業(カフェ「WEWE」) <町受託事業>

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしが継続できるよう、正しい知識の啓発活動や

家族の介護負担の軽減を図るための誰もが集える居場所として、令和6年度は会場を「イオン大木店内」、「大莞コミュニティセンター」、「WAKKA」の3箇所で開催しました。午前中は、プリントや動画を活用した脳トレ、体操、ゲームを行い、午後からは自由に過ごせるようにしました。また、カフェ講話を開催することで、認知症や健康に関する情報の提供を行いました。開催時間内は自由に出入りし、楽しみながら利用できる雰囲気づくりを心掛け、地域住民が気軽に交流し、相談できるよう努めました。

また新たに、公益的取組としてグループホーム幸へ講師を依頼し参加頂いたほか、WAKKAでの「お試し認知症カフェ」を2回開催しました。第1回は、町内保育園の園児やバンド、福祉施設も招待し、音楽イベントを行い、100歳差の交流が図られるなど多世代交流の機会となり、総勢80名の参加がありました。

第2回は、なつかし料理の調理をメインに、町内で活動されている囲碁や俳句の会の団体も招き、互いに交流して頂く機会を設けました。なつかし料理を話題に参加者同士の交流が深まる機会となり、カフェへの参加を通じて定期的な利用に繋がる方もありました。

その他、健康福祉講座として「認知症カフェ事業～認知症～予防と備え～」を12ヶ所の地域で行いました。

《利用実績》

(人)

	実施回数	実人数			延人数	当事者	家族	地域住民	ボランティア	事業所等その他	町内			町外
		男性	女性	その他							大溝	木佐木	大莞	
令和6年度	32	16	80	1	769	25	0	665	62	17	474	228	52	15
令和5年度	28	7	67	0	572	48	7	483	28	6	379	158	27	8

【実施場所・回数・延べ人数】

- ・イオン大木店内 24回・635人
- ・大莞コミュニティセンター 6回・58人
- ・WAKKA お試し 2回・76人

【カフェ講話】

- ・「上手な病院のかかりかたを知っていますか？」 (5/27)
- ・「熱中症について」 (7/22)
- ・「認知症について」 (8/5)
- ・「正しいお薬の使い方について」 (9/9)
- ・「大人の読み聞かせ」 (11/18)
- ・「冬に多発 ヒートショックにご用心」 (R7.1/27)
- ・「便秘について」 (R7.3/10)

【健康福祉講座 認知症カフェ事業～認知症～予防と備え～】

- ・前牟田東老人クラブ (5/8・17 名)
- ・上白垣老人クラブ (5/10・10 名)
- ・侍島下老人クラブ (5/15・31 名)
- ・八町牟田下老人クラブ (5/22・13 名)
- ・古賀老人クラブ (5/24・17 名)
- ・奥牟田西老人クラブ (7/17・17 名)
- ・蛭池北老人クラブ (9/12・28 名)
- ・福岡老人クラブ (9/18・22 名)
- ・道本老人クラブ (10/11・21 名)
- ・上木佐木下老人クラブ (R7.1/22・15 名)
- ・中島老人クラブ (R7.2/5・12 名)
- ・牟田サロン (R7.3/11・19 名)

【実習生受入】

大川看護福祉専門学校 1 年生 (6/24・6 名)

3. 生活支援等ホームヘルプサービス事業 <町受託事業>

(1) 生活支援ホームヘルプサービス（高齢者）事業

日常生活に支障のある高齢者等に対してホームヘルパーを派遣することにより、安心して生活を営むことができるよう生活全般の支援を行い、高齢者の介護予防や自立、社会参加を促しました。

- ① 家事に関すること : 調理、洗濯、掃除、買い物、その他必要な家事支援
- ② 身体介護に関すること : 入浴、洗髪、清拭、排泄、食事、その他必要な身体介護
- ③ 相談、助言に関すること : 生活、身上、介護に関する相談、助言

《利用実績》

上段令和 6 年度/下段令和 5 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	3	3	3	4	4	5	5	5	5	5	5	5	52
	1	1	1	3	3	3	3	3	2	2	3	3	41
利用者 延回数	10	12	12	16	12	18	22	16	17	19	15	18	187
	4	4	4	7	10	11	14	12	8	7	13	11	105

※サービス提供は 1 回 45 分

4. 産前産後ホームヘルプ事業（子育て支援事業）

出産前後、体調不良等の理由で家事や育児を行うことが困難な家庭にホームヘルパーを派遣することで、妊産婦の身体的・精神的な負担の軽減を図り、子育て支援を行いました。

- ① 家事に関すること : 調理、衣類の洗濯・補修、居室等の掃除、整理整頓、生活用品の買

物、関係機関等との連絡調整、その他必要な家事支援

② 育児に関すること：授乳、おむつ交換、沐浴介助、その他必要な育児支援

《利用実績》

上段令和6年度/下段前令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数										1	1	2	4
			1	1						1			3
利用者 延回数										2	6	5	13
			5	2						4			11

サービス提供は1回45分

【産前産後ホームヘルプ研修】

- ・家庭の現状と支援について・沐浴指導（5/24）
- ・食事について・沐浴指導（11/15）

5. 介護ポイント事業＜町受託事業＞

社会参加や生きがいづくりの取組みとして、大木町ボランティア養成修了者で本会事業のボランティア活動に参加された方に介護ポイントを付与しました。1回＝300ポイントとし、ポイント数に応じてイオン商品券を配布しました。

（実績：配布者32名、759活動・759ポイント、イオン商品券222,000円分）

障害者自立支援事業

1. 指定相談支援事業所「おおき」＜町受託事業＞

障がい者が日常生活で生じる様々な不安や課題に関する相談に応じ、適切な助言及び情報提供等を行うとともに、関係機関との連絡調整を図りながら、必要な障害支援区分認定調査やアセスメント（事前評価）、計画作成を行い、サービスの利用支援を行いました。

また、定期的なモニタリング（状況確認）では、自宅や事業所に訪問し、利用者の様子や状況について丁寧な確認・把握に努めました。

《支援実人数》

	身体障がい		重症心身		知的障がい		精神障がい		発達障がい		難病		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
令和6年度	14	2	9	1	42	14	39	1	7	44	2	0	7	9
令和5年度	17	3	6	1	44	14	56	1	7	52	4	0	1	5

※令和5年度より相談件数ではなく支援実人数を計上 / 福祉システムより

《相談内容》 ※延べ件数

内 容	令和 5 年度			令和 6 年度		
	者	児	計	者	児	計
福祉サービスの利用に関する支援	603	279	882	1,072	431	1,503
障害や病状の理解	208	52	260	409	200	609
健康・医療	289	42	331	456	159	615
不安の解消・情緒の安定	270	46	316	642	151	793
保育・教育等	3	160	163	5	321	326
家族関係・人間関係	129	64	193	346	213	559
家計や経済	17	0	17	91	3	94
金銭管理	28	0	28	86	0	86
日常生活	165	58	223	362	171	533
就労	118	1	119	244	2	246
社会参加・余暇活動	32	1	33	94	60	154
権利擁護	36	0	36	6	6	12
住宅入居等	13	1	14	83	8	91
その他	262	143	405	482	231	713

福祉システムより

【障害支援区分認定調査】

障害福祉サービス（介護給付）の利用に必要な障害支援区分について、障がいのある方やその家族等に対して聞き取り等による調査を実施しました。

（実績：調査 52 件）

＜調査人数＞

（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
者	1	1	6	1	2	5	1	5	3	3	11	1	40
児	1	1	0	1	0	0	0	2	3	0	2	2	12
計	2	2	6	2	2	5	1	7	6	3	13	3	52

【就労相談窓口】

就労相談窓口では、障がいがある方等の就労相談について、当事業所と障害者就業・生活支援センターぽるて（久留米市）との共同により、ワンストップによる相談支援を行いました。主には、精神疾患等を理由に離職された方の新規相談や障がい者雇用で就労開始された方への助言等継続支援を行いました。

開設日時 : 随時 (要 2 日前までに予約) 9:00-16:00

開設場所 : 社会福祉協議会 (オンラインにて「ぼるて」と繋ぎ実施)

相談対応者 : 就業・生活支援センターぼるて、指定相談支援事業所「おおき」 各 1 名

《相談実績》

実績 : 3 件 (前年度 11 件)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
0 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0 件	0 件	0 件	1 件	1 件	0 件

【大木町地域自立支援協議会 (実務者会議)】

障害がある方等が、地域の中で安心・充実して暮らしていけるように、地域の様々な関係者・関係機関が集まり、ネットワークの構築や体制の整備など、地域課題の解決に向けた協議・検討を行いました。

会議開催 : 第 1 回 7 月 5 日 (出席 17 名)

第 2 回 1 月 23 日 (出席 17 名)

議 題 : 第 1 回

(1) 大木町の障がい福祉の現状と課題について

(2) 障害者週間 (12 月) の取組みについて

第 2 回

(1) 令和 7 年度の自立支援協議会 (実務者会議) 事業計画 (案) について

2. 計画相談支援事業・障害児相談支援事業

《計画相談数》 ※実人数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規 計画	R6 年度	25	8	9	17	9	9	13	8	8	9	7	20	142
	R5 年度	6	7	15	6	9	16	6	8	9	11	24	31	148
モニタ リング	R6 年度	13	16	19	20	18	38	22	15	26	11	15	13	226
	R5 年度	8	19	28	17	27	38	15	23	33	15	17	25	265

【相談員担当者研修】

① 障害支援区分認定調査員 初任者研修

5/27

② 福岡県相談支援従事者 初任者研修

(前期) 5/13~9/13

(後期) 9/4~11/28

③ 障害者差別解消法に係る説明会

6/4

④ 令和 6 年度筑後特別支援学校児童生徒居住地区ネットワーク研修会	6/4
⑤ 障害支援区分認定調査員 フォローアップ研修	8/27・10/11・11/19
⑥ 令和 6 年度集団指導	9/25
⑦ 医療的ケア児コーディネーター養成研修	10/6～10/24
⑧ 令和 6 年度福岡県自殺未遂者支援研修（筑後ブロック）	10/8
⑨ 大木町要保護児童対策地域協議会 研修	10/15
⑩ 令和 6 年度精神障がい者地域支援事業関係機関研修会	10/24
⑪ 社会福祉士実習指導者講習会	11/1・11/2
⑫ 医療的ケア児等への支援に関する情報交換会（連携会議）	11/12
⑬ 令和 6 年度八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会	11/25
⑭ 令和 6 年度発達障がい者支援者研修会（成人期）	12/10
⑮ 放課後等デイサービスマーベラス フェスタ	12/14
⑯ 令和 6 年度難病患者（児）の相談支援従事者等研修会	2/12
⑰ 令和 6 年度福岡県小児在宅医療推進事業 聖マリア病院小児在宅ケア研修会	3/21

【会議等の出席】

- ① 業務連携会議 （5回）
- ② 大木町要保護児童対策地域協議会 実務者会議 （4回）
- ③ 地域自立支援協議会 実務者会議 （2回）
- ④ 新規相談支援事業所開設に伴う会議 （4回）
- ⑤ 八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会 （1回）
- ⑥ 大木町地域自立支援協議会（全体会）（1回）

包括的支援事業

1. 生活支援体制整備事業 <町受託事業>

本町では、令和 3 年度より行政区から自治区への移行が行われ、令和 5 年度から大木ささえ隊（協議体）組織を見直し解散とした上で、その役割を各自治区・各校区組織へ移行するとともに、各校区コミュニティセンターに社協職員（生活支援コーディネーター）3 名を配置し、サポートを行いました。

ただし、木佐木校区コミセンに関しては、図書館内にコミセンが移転したため、相談を目的とした来所者が少ないことから、令和 6 年度から配置をせず、社協を拠点とした対応とすることにしました。住民の生活及び地域活動に身近なコミセンへの職員配置による評価として、次の 3 点にまとめました。

- ① 各校区コミセンを拠点としたアウトリーチにより、多様な住民や団体等との新たな繋がり・連携が生まれ、相乗効果によるよりインクルーシブ（包摂的）な活動の企画・推進ができた。
- ② 社協職員（SC）やその役割への認知度が高まり、身近な相談機能として様々な場面で頼られることも増え、地域住民の受援力の向上に繋がった。

- ③ 町事業・地域活動・社協事業の情報共有が密になり、町全体における地域活動の効率的かつ効果的な実施推進が図られた。

【主な活動実績】

- ・サロン・老人クラブ・自治区・団体の支援 / 生活支援等の活動 / 地域住民の様子確認等
訪問活動 (実績：341 件)
- ・各校区コミセン（木佐木校区は社協で対応）への相談来所件数 (実績：501 件)

(1) 地域課題等の把握、活動等の支援

社協職員のコミセン配置により、下記のような取組みや活動支援を行いました。

- ① サロン・老人クラブの申請関係書類受付及び書類作成支援、運営支援
(レク道具の貸出・運動や体操のレクチャー等)
- ② 生活困窮者への相談受付、食料支援
- ③ 社会資源とのマッチング
- ④ 孤立・孤独者の把握と支援
- ⑤ 食料寄付の受付
- ⑥ スマートフォン・パソコン操作の相談
- ⑦ 実施主体との連携強化や運営支援（地域食堂や団体等） など

(2) 社会資源等の把握・開発、ネットワーク運用

地域食堂プロジェクトチームを立ち上げ、大木町で「いただきます食堂」、「ゆかり食堂」と2カ所の地域食堂が誕生し、子どもから高齢者までの誰もが気軽に安心して参加することができる食堂として実施されています。地域食堂では、食をきっかけに、多世代が食堂へ足を運び、多様な人と人が関わる空間として、子どもが高齢者に声をかける、高齢者が子どもに声をかけるといったコミュニティが生まれています。

また、地域食堂という多世代交流を実現する「居場所そのもの」が、地域活性化、孤食対策、子どもの食育や子育て支援、貧困対策など、さまざまな価値・機能の源泉となっているとともに、今後の地域共生社会実現の一つの大きな可能性を見出すことができました。

(3) 高齢者社会参加や生きがいの推進

地域活動の担い手であるボランティアの養成を目的として、前期・後期とも基礎編・専門編・応用編と全6回のボランティア養成講習を開催しました。全日程修了者については、大木町ボランティアとして登録し、各ボランティア活動への参加に繋がりました。

(実績：令和6年度修了者21名、うちボランティア活動参加9名)

また、人口減少対策や地域住民の活躍支援の取組みとして、町シルバー人材センターとの共催による剪定講習会を開催し、参加者らによる生活困窮世帯の樹木の伐採等も行いました。

(実績：大木町ボランティア登録者178名・令和6年度末現在)

(4) 認知症サポーターの支え合い活動を支援

認知症カフェでのグループホーム職員による講話や保育園及び特別養護老人ホームとの交流など、社会福祉法人の地域支援活動として連携した取組みを図ることができました。

(5) 行政との連携

行政会議とコーディネーター会議を開催し、シルバー人材センターの就労的活動支援コーディネーターも参加の上、地域活動支援（剪定講習会の開催）や高齢者の活躍支援等について適宜情報共有や協議を行いました。

(6) 広報

コミセンでの活動やボランティア活動、講習等の情報について、社協だよりや本会ホームページ、SNS（社協公式 LINE）等で積極的な発信を行い、活動の見える化を図りました。

【活動内容（詳細）】

- ① 大溝活性化委員会会議 （2回）
- ② 大溝コミセンミーティング （11回）
- ③ 木佐木活性化協議会役員会会議・意見交換会 （1回）
- ④ 木佐木活性化協議会・地域福祉部会会議 （2回）
- ⑤ 木佐木コミセンミーティング （9回）
- ⑥ ふるさと大莞活性化委員会会議 （2回）
- ⑦ 大莞コミセンミーティング （20回）
- ⑧ 大莞校区ひかり祭り・防犯活動 （1回）
- ⑨ 大莞まつり話し合い （1回）
- ⑩ 区長宅訪問 （31件）
- ⑪ 老人クラブ申請受付 （41地区）
- ⑫ いきいきサロン申請受付 （23地区）
- ⑬ 民生委員児童委員連絡会・意見交換会 （4回）
- ⑭ 移動販売（グリーンコープ）調査 （2回）
- ⑮ 移動販売（グリーンコープ）チラシ全戸配布 （2地区）
- ⑯ 移動販売（グリーンコープ・町）協議 （1回）
- ⑰ とくし丸（移動販売）マッチング （2件）
- ⑱ 移動支援説明会・民生委員児童委員協議会 （1回）
- ⑲ 移動支援三者協議（企画財政課・福祉課・社協） （1回）
- ⑳ 通いの場・居場所づくりについての講座開催 （1地区）
- ㉑ 社協だより 生活支援コーディネーター通信の記事を掲載 （4回）
- ㉒ 地区いきいきサロン課題調査 （1地区）
- ㉓ 地区いきいきサロン・老人クラブ訪問 （28地区）

- ㊸ 町内社会福祉法人訪問 （6回）
- ㊹ 町内社会福祉法人公益的な取組 （3回）
- ㊺ 団体ボランティアの会 （2回）
- ㊻ 地域食堂プロジェクトチーム話し合い等 （9回）
- ㊼ 地域食堂視察（みやま市）（1回）
- ㊽ 地域食堂研修会への参加（みやま市）（1回）
- ㊾ お試し食堂（スマイル）の開催 （2回）
- ㊿ おしごとパレット視察（豊前市）（1回）
- ㊿ 大木町ボランティア養成講座 （前期1回・基礎編・専門編・応用編）
（後期1回・基礎編・専門編・応用編）
- ㊿ 大木町ボランティアステップアップ講座 （1回）
- ㊿ 大木町ボランティア現任研修 （1回）
- ㊿ 活躍支援 剪定講習会開催 （2回）
- ㊿ 福祉フェスタの開催 （1回）

【職員研修等参加】

- ㊿ 福岡県生活支援コーディネーター初任者研修 （2回）
- ㊿ 福岡県生活支援コーディネーター研修 （1回）
- ㊿ 筑後地区生活支援コーディネーターの会 （2回）
- ㊿ 地域ケア会議 （5回）
- ㊿ ケアマネ連絡会 （1回）
- ㊿ コーディネーター会議（町・シルバー人材センター・社協）（4回）

2. 小地域活動「ふれあいいきいきサロン」の推進

小地域を拠点に高齢者をはじめ地域住民の閉じこもり防止や仲間づくり、生きがいづくりを目的として、集える場づくりであるサロンの普及に努め、27行政区 22 サロンが活動しています。各サロンにおいて、茶話会やレクリエーション、健康・介護予防の体操、多世代交流等、各地区の特性を活かした活動が行われました。また、新たに土甲呂地区の「いきいきサロン 1056」が開設されました。

《開催・参加実績》

NO.	サロン名	開催回数	延べ人数	NO.	サロン名	開催回数	延べ人数
1	いきいきサロン大角東	10	142	13	上白垣いきいきサロン	12	112
2	古賀区ふれあい・いきいきサロン	12	214	14	蛭池北・中・南区いきいきサロン	7	149
3	牟田いきいきサロン	13	225	15	侍島いきいきサロン	6	172
4	十間橋いきいきサロン	12	226	16	八町牟田下「和サロン」	6	101
5	いきいきサロン 1056（土甲呂）	6	60	17	絵下古賀いきいきサロン	3	61
6	福岡いきいきサロン	13	391	18	上木佐木中いきいきサロン	7	165
7	笹淵「光サロン」 ＝ 休止 ＝			19	上牟田口いきいきサロン	6	171
8	前牟田東げんきサロン	13	312	20	上八院上区ふれあいいきいきサロン	12	181
9	横溝町ふれあいいきいきサロン	7	70	21	上八院下いきいきサロン	12	98
10	道本いきいきサロン	17	175	22	高橋よかよかサロン	4	89
11	堀田ふれあい・いきいきサロン	16	237	23	荒牟田いきいき和加波サロン	15	290
12	五反田いきいきサロン	7	94				

【いきいき運動セミナー】

ふれあいいきいきサロンのリーダーの育成を目的として、老人クラブ連合会と協働でいきいき運動セミナーを開催しました。参加者は町内の地域活動や各地区サロンにおけるけん引役としての活動を依頼しました。

（実績：参加 35 名）

- ・サロンや老人クラブで役立つ体操 講師：後藤 澄子 氏
- ・室内用パタンの試合形式による体験 協力：前牟田東 パタン同好会

【ふれあいいきいきサロン連絡協議会】

町内のサロン同志による情報交換や交流を促し、相互にサロン運営に役立てて頂けるよう、連絡協議会を設置しています。5 月と 2 月に協議会を開催し、各サロンの活動状況や情報共有を行いました。

また、11 月には大木町老人クラブ連合会との合同で、「大木町みんなが主役の元気な地域づくり大会」を開催し、老人クラブとサロンの発表、団体ボランティア活動披露、講演を通じて、活動の意義を再認識し共有することができました。

（実績：参加 127 名）

3. 高齢者買い物移動支援事業＜令和6年度から町受託事業＞

上段令和6年度 下段令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	8	9	8	9	9	8	9	9	8	8	8	8	101
	8	7	9	8	8	9	8	8	8	8	7	8	96
利用者数	28	25	28	25	23	25	25	25	25	22	22	22	295
	16	16	17	20	19	17	21	22	24	21	25	24	242
利用者 延人数	89	93	87	99	76	84	101	95	91	73	71	79	1038
	47	41	60	55	65	60	73	78	78	64	77	75	768

* 令和6年度新規利用者5名、死亡者3名、施設入所2名、終了者1名

【大木町老人クラブ連合会 事務局】

本会では、大木町老人クラブ連合会の事務局を担い、老人の福祉の向上、大木町老人クラブ連合会活動及び単位老人クラブ活動を推進しています。

令和6年度は、単位老人クラブ会長研修として広川町老人クラブ連合会視察を行い、活発な意見交換を行いました。女性部長の視察研修では、終活セミナーを実施しました。

（主な事業）

① スポーツ大会の開催

・町グラウンドゴルフ大会・町パタンク大会・南筑後地区老連グラウンドゴルフ大会

② 各研修会等の実施

・スマートフォン個別相談会（各校区コミセン等で随時）

・老人クラブとふれあいいきいきサロン合同による「みんなが主役の元気な地域づくり大会」の開催（侍島老人クラブによる活動発表など）

・女性部視察研修会「終活セミナー」

（参加人数：17名）

共同募金配分金事業

昭和22（1947）年に、戦後復興のための民間の募金活動として始まり、現在でも、「自分の町を良くするための仕組み」として法律に位置づけられ、全国で取り組まれています。

本会でも、共同募金（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金）に対する町民の理解を深めながら募金活動を実施するとともに、配分金を下記の5つの事業に分け、地域福祉の推進に有効活用しています。

1. 高齢者福祉活動事業

サロン連絡協議会や「大木町みんなが主役の元気な地域づくり大会」（サロン大会）にかかる費用を一部助成し、地域活動推進の支援を行いました。

2. 児童・青少年福祉活動事業

【福祉映画】

社会福祉への理解と関心を深め、思いやりのある心、感謝の心を育てるために、上映希望のあった小学校の児童を対象に、福祉映画の上映・鑑賞会を実施しました。

(参加者数：306名)

<実施実績>

学 校 名	実 施 日	参加児童	参加人数 (計)
大莞小学校	11 月 8 日	1 ～ 4 年生	113 名
木佐木小学校	12 月 13 日	1 ～ 5 年生	193 名

【保育園・幼稚園・小中学校の福祉教育活動の推進】

児童への教育の一環として福祉教育活動を実施する各小中学校に対し、活動費の助成（各 4 万円）を行いました。なお、保育園及び幼稚園については申請がありませんでした。

【福祉教育の実施】

共に生きる学びの場として、木佐木小学校 3 年生を対象に「車いす体験学習」の福祉教育を行いました。実施にあたっては、大木町ボランティアの協力や新たに町内の福祉事業所にも参加を依頼し、「地域とともに広げる福祉教育」を目指し、開催することができました。

3. 福祉育成援助活動事業

【社協だよりの発行】

町民へ本会の事業や活動への理解・周知等を図るため、「社協だより」を年 4 回（4 月、7 月、10 月、1 月）発行し、全戸配布しました。本会の実施事業や各地区のサロン活動、福祉団体の紹介、各種イベント・セミナー等の案内、事業報告・決算報告などを掲載しました。

【ホームページ・SNS の活用】

本会ホームページにおいて、事業紹介や事業報告、決算報告等を掲載したほか、地域の情報や各種セミナーの案内等、SNS（社協公式 LINE）を活用し、地域福祉の理解や当会活動の認知度向上に努めました。

【福祉教育教材の配布】

子どもたちの福祉への関心と思いやりの心を育成するため、福岡県社会福祉協議会が作成した教育教材（冊子）「ともに生きる」を、希望のあった町内の小学校に配布しました。

(配布実績：3、4 年生・151 部)

【生活困窮者支援】

「フードバンクくるめ」や町内企業、住民の方等から頂いた食品・野菜・日用品・米などを、ひとり親

世帯及び生活困窮世帯に対し、相談の受付・登録後、無料で配布しました。

さらに、支援を受けた人にも準備や配布のボランティア参加を依頼し、「支える側」と「支えられる側」を分けない支援体制づくりを目指しました。 (実績：臨時配布延べ 162 件)

【地域食堂立ち上げ支援】

地域食堂に関心のある住民らが主体となり地域食堂を立ち上げるために、意見交換会や視察の実施・調整等の支援を行いました。 (実績：地域食堂立ち上げ 2 か所)

4. ボランティア活動育成事業

ボランティア活動及びボランティアの育成支援を目的に、ボランティア活動保険料の助成や災害ボランティア養成講座を実施しました。また、町で活躍するボランティア団体や福祉事業所等について町民に広く知っていただくため、イオン大木店で「福祉フェスタ」を開催し、町内の各ボランティア団体による出店や八女工業高等学校の e スポーツ部による e スポーツ体験など、多くの方にとって福祉に触れていただく機会となりました。

開催日時：令和 7 年 3 月 8 日

開催場所：イオン大木店

来場者数：340 人

参加団体：みすゞの会 / 声のボランティアそよ風 / 大木ハワイアンフラ / 大木手品サークル / 大木町手話サークル「なないろ」 / さなぎの会（不登校を考える親の会） / 陽だまり（大木町母子寡婦福祉会） / LLC 就労支援センター「えん」

【その他団体活動支援】

町内の各ボランティア団体が、積極的かつ安心感を持って活動を進められるように、ボランティア活動保険の一部助成を行いました。

また、大木町母子寡婦福祉会に対し、ひとり親家庭の社会参加や生活安定のための情報提供（奨学金等の案内送付など）等の支援を行いました。

【ボランティア活動保険料の助成】

災害ボランティア活動や地域貢献活動を行う個人ボランティアの方を対象に、活動中の事故などへの補償に対応したボランティア保険の加入保険料（町民のみ・全額）を助成しました。

(実績：1 名)

5. 歳末たすけあい配分金事業

歳末たすけあい募金は、支援を必要としている地域の方が安心してその地域で暮らしていけるよう地域福祉活動等に配分されている募金です。12/1～12/31 の募金期間に寄せられた募金は、本会事業や助成金の一部として町内の地域福祉活動に活用しました。

【ボランティア団体への助成】

町内ボランティア団体による福祉活動推進のため、申請に基づき助成金を交付しました。

(実績：下記 8 団体)

声のボランティアそよ風 / 大木ハワイアンフラ / 大木手品サークル / 大木町手話サークル「なな
いろ」 / さなぎの会（不登校を考える親の会） / げんき会（パソコンサークル） / みずぶの会 /
陽だまり（大木町母子寡婦福祉会）

【災害支援事業助成】

町内で発生した火災（半壊以上）の被災者に対し見舞金をお渡ししました。（実績：1 件）

苦情解決に伴う第三者委員会の設置

社会福祉法第 82 条により本会に、苦情解決第三者委員会を設置しています。

令和 6 年度中の苦情に関する受付はありませんでした。

災害ボランティアセンターの設置、運営

近隣市町で同時多発的な災害が発生した場合、4 市町社協（大川市・筑後市・広川町・大木町）による円滑な災害ボランティアセンターの設置・運営に資することを目的に、2/15 に中筑後地区協同で合同セミナーを実施しました。

また、町内の自然災害発生時に、被災者支援を迅速かつ効果的に行うため、「地域協働型」化を進めており、令和 6 年度は、町内の 9 団体（企業・社会福祉法人等、社協含む）で災害時相互協力協定を締結しました。今後、参加する企業や団体を増やし協力体制を強化していきます。

その他研修等

本会職員のスキルアップや情報収集、また他機関との情報交換・交流等を目的に様々な研修に参加しました。

- ① 大木町民生委員児童委員協議会視察研修
- ② 市町村社会福祉協議会事務局長会議
- ③ 令和 6 年度制度改正・報酬改定等説明会
- ④ 市町村社会福祉協議会会計セミナー
- ⑤ 市町村老人クラブ事務局長研修会
- ⑥ 生活福祉資金事務説明会
- ⑦ 福岡県生活支援コーディネーター連絡会
- ⑧ 福岡県地域福祉活動職員連絡会
- ⑨ 防災士養成研修
- ⑩ ライフレスキュー事業フォローアップ研修
- ⑪ ふくおかきずなフェスティバル
- ⑫ 広報研修

- ⑬ 働き方改革セミナー
- ⑭ 日常生活自立支援専門員研修
- ⑮ 業務目標設定・管理・達成研修
- ⑯ 年末調整事務研修
- ⑰ リスクマネジメント研修
- ⑱ 労務管理研修
- ⑲ 報連相研修
- ㉑ 虐待防止研修
- ㉒ ストレスマネジメント研修
- ㉓ ジモティー研修
- ㉔ 福岡県共同募金会担当者研修
- ㉕ 市町村社会福祉協議会新任職員研修
- ㉖ 共生社会の実現を推進するための認知症基本法研修